

企画展

よめないけど、
いいね！

根津美術館の書の名品

Museum Collection Exhibition

Can't Read It, but I like It!

— Calligraphy in the Nezu Collection

書の名品といわれても昔の人の字は読めないから苦手だ、何を書いてあるのかわからないからつまらないなどと、書をテーマとする展覧会が敬遠されがちなのは事実です。「日本の文字だから、読めなければいけないのに自分は読めない」という後ろめたさがあるからでしょうか。もちろん、書かれた内容を正しく理解するには読むことが必須ですが、それはひとまず活字本にゆずりましょう。

たとえ読めなくても、一文字ひとつの形の美しさや、つづけ文字の線が奏でるリズム、また、紙の装飾と書かれた文字とのハーモニーなど、肉筆の書そのものの魅力に触れることは可能なのです。昔のひとであっても、皆がすらすら読めたわけではありません。たとえば、近世初期の茶の湯の世界では、高僧の希少な墨蹟を尊重する一方で、茶室の床の寸法に合わせてそれを切断してしまうということさえ行われていたのですから。

根津美術館所蔵の書の名品を軸に構成した今回の展覧会は、先人たちによって時代を超えて伝えられてきた書の見どころをわかりやすくご紹介することを目指しました。「よめないけど、いいね！」と実感していただけたなら、そしてその体験が、書の作品をさらに深く鑑賞するためのひとつのきっかけとなったら、これにすぎる喜びはありません。

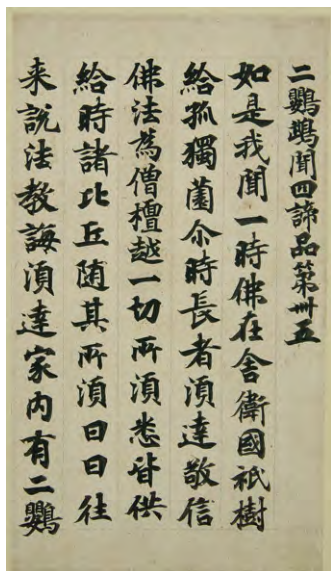
2022年 7月16日(土)～8月21日(日) 日時指定予約制

根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館
NEZU MUSEUM



釈迦の骨を漉き込んだ？という茶毘紙



その堂々たる書風と、かつて東大寺に伝来したことから、江戸時代の鑑定家が聖武天皇の筆蹟として「大聖武」と名付けた。紙の原料であるマコミの木の粗い繊維または脂肪成分とされる粒子を釈迦の骨の粉末に見立て、茶毘紙と呼ばれた料紙に書かれている。

おおじょうむ しょうむてんのう
大聖武 伝 聖武天皇筆
1 幅 彩箋墨書
日本・奈良時代 8 世紀

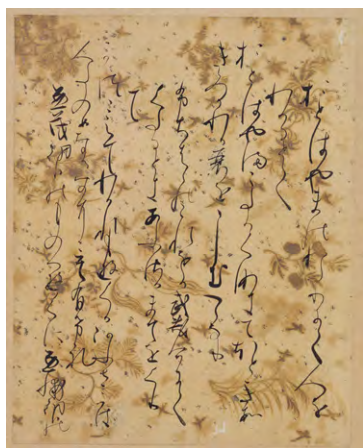
平安時代には法華經の書写がとくに盛んとなる。法華經を写すこと、さらには經卷を飾ることによって、極楽に往生できるという思想が背景にある。全卷を金銀箔散らしの茶色の染紙で統一した、初公開の美しい装飾經。

ほけきょうならびにかいけつ
法華經並開結
10 卷のうち卷第五
1 卷 彩箋墨書
日本・平安時代 11 ～ 12 世紀



よめなくても、極楽へは行けるかも

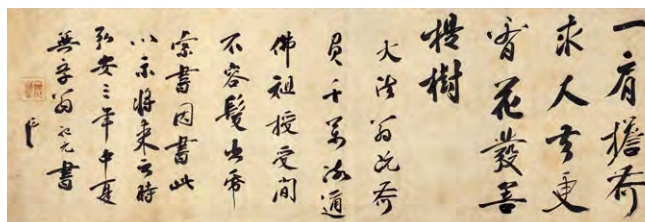
よめないけど、スピード感が気持ちいい



金銀の絵の具で華麗な下絵を描いた料紙の上を、ためらいもなく動く筆のスピード感が魅力である。筆者の藤原定信は当時 20 代半ば、のちに 42 歳から 23 年かけて計 5000 卷以上の「一切經」をひとりで写すという偉業をなし遂げた。

いしやまざれ つらゆきしゅうげだんかん ふじわらのさだのぶ
石山切（貫之集下断簡） 藤原定信筆
1 幅 彩箋墨書
日本・平安時代 12 世紀
小林中氏寄贈

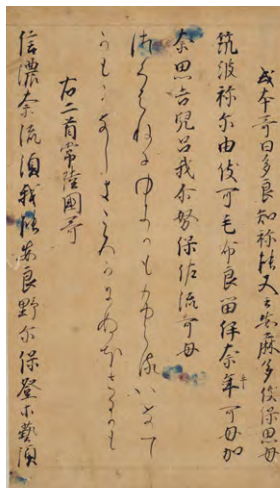
さすが高僧の書は格調が高い。が、江戸時代の記録との照合によれば、当初の冒頭 5 行と小字部分の 1 行目が切りつめられている。茶の湯の掛物とするために切断再構成されたのである。はなから読むことを放棄しているのだ。



重要文化財
むがくそ げんぼくせき ふ えのげだんかん
無学祖元墨蹟 附衣偈断簡
1 幅 紙本墨書
日本・鎌倉時代 弘安 3 年（1280）

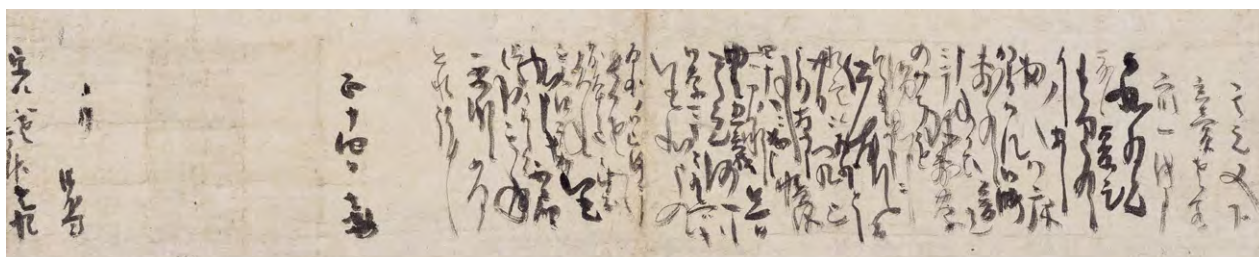
まさか切り取られているとは！

万葉集は、平安貴族もにがてだった



8世紀に成立した『万葉集』は、漢字の音や訓を借りた万葉仮名で表されていたため、10世紀にはすでに一般の貴族たちには読むことがむずかしくなっていた。現存する11世紀以降の豪華本万葉集は、同じ和歌を万葉仮名と平仮名で並記する。

なにわ ざれ みなものしたごう
難波切 伝源 順 筆
1 幅 彩箋墨書
日本・平安時代 11 世紀
植村和堂氏寄贈



しよじょう ほん あ みこうえつ
書状 本阿弥光悦筆
1 幅 紙本墨書
日本・桃山時代
慶長 10 年（1605）

桃山～江戸初期の能書として名高い光悦だが、プライベートな手紙ではこんなにも奔放な筆遣いを見せる。文章が長いときは最初の余白にもどり、さらには本文の各行の間にも書き込む。右から順に読んでも文はつながらない。

いしやまざれ
表紙の作品：上 石山切（貫之集下断簡・部分） 藤原定信筆 日本・平安時代 12 世紀 小林中氏寄贈
こうくみょうしゅう
下 広弘明集 巻第十五（中尊寺経 / 秀衡経・部分） 日本・平安時代 12 世紀

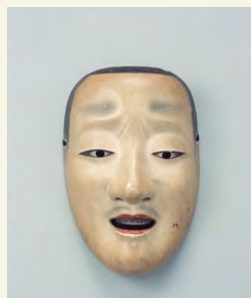
書いた順を無視してはよめません

同時開催展

展示室 5

歌人のおもかげ—能面と装束でたどる—

能の脚本である謡曲には和歌にちなむものが少なくありません。この展示では、歌人を登場人物とした演目いろいろる能面と装束を、館蔵品から選んでご紹介します。



ちゅうじょう 焼印「出目洞水」
1 面 木製
日本・江戸時代 享保 6 年（1721）

五位の中将として知られる在原業平の面貌を写した面。穏やかで気品あふれる容貌は、業平と二条后の愛の逃避行がテーマの能「雲林院」などにふさわしい。

展示室 6

暑中の涼—夏の茶道具取り合わせ—

真夏の茶会は、道具で涼しさを演出することで、心地よい空間を作り出します。暑中の涼となる季節の茶道具約 20 件をお楽しみください。



え ごうらい うめばちもんちゃんわん
絵高麗梅鉢文茶碗
磁州窯系
2 口
中国・明時代 16 世紀

夏に好まれる絵高麗の平茶碗 2 碗を重ねたもの。絵高麗は朝鮮半島製とみなされたことによる呼称であるが、現在は中国で生産されたと考えられている。

※本リリース掲載の作品は、すべて根津美術館所蔵品です。

開催概要

展覧会名	企画展「よめないけど、いいね！－根津美術館の書の名品－」
	日時指定予約制 ご来館前に当館ホームページより日時指定入館券をご購入ください。 (根津倶楽部会員、招待はがきをお持ちで入館無料の方も予約が必要です。)
主催	根津美術館
開催期間	2022年7月16日〔土〕～8月21日〔日〕
開館時間	午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)
休館日	7月18日(月・祝)を除く毎週月曜日、7月19日(火)
入館料	オンライン日時指定予約 一般 1300円(1100円) 学生 1000円(800円) ※()内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。 ※オンライン日時指定予約の定員に空きがある場合のみ、当日券(一般1400円)を美術館受付で販売いたします。 ※2022年7月12日(火)より当館ホームページで予約を受け付けます。
アクセス	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、 B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベータまたはエスカレーター)より徒歩10分
住所	〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1
お問合せ	Tel. 03-3400-2536(代表) website https://www.nezu-muse.or.jp
広報・取材のお問合せ	学芸部 広報課 所／村岡 Tel. 03-3400-2538(直通) e-mail: press@nezu-muse.or.jp

当館の広報制作物に関して、郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、どうぞお知らせください。
プレスリリースと画像申請書は、当館ウェブサイトの「プレス関係の方へ」からダウンロードも可能です。

次回展

企画展「蔵出し蒔絵コレクション」
2022年9月10日(土)～10月16日(日)



根津美術館所蔵の蒔絵作品をまとめてご紹介する初の機会です。おなじみのものから初公開まで、精緻な技と金の煌めきをお楽しみいただきます。

左: 重要文化財 春日山蒔絵硯箱 日本・室町時代 15世紀
右: 端午蒔絵印籠 柴田是真作 日本・江戸時代 19世紀
いずれも根津美術館蔵

*本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。(2022.4.)